

日本古生物学会2013年年会・総会

2013年6月28日（金）：熊本大学百周年記念館

6月29日（土）～6月30日（日）：熊本大学理学部

共催：熊本大学

***** 1. プログラム概要 *****

6月28日（金）会場：熊本大学百周年記念館

- 【13:00～16:20】シンポジウム「古環境指標としての微化石 - 生息場から堆積場に至る環境復元のツールとして」…………… ii
- 【16:40～17:40】総会…………… ii
- 【18:00～20:00】懇親会 熊本大学「フォリコ〔2階〕」…………… ii

6月29日（土）会場：熊本大学理学部1・2号館西側1～3階，3号館2階

- 【9:00～9:50】学術賞受賞記念特別講演（A会場）…………… iii
- 【10:00-11:00】一般講演 口頭発表1（A～C会場）…………… iii
- 【11:15-12:15】一般講演 口頭発表2（A～C会場）…………… iii-iv
- 【13:15-14:15】一般講演 ポスター発表コアタイム（ポスター会場）…………… iv-v
- 【14:15-15:30】一般講演 口頭発表3（A～C会場）…………… v-vi
- 【15:45-17:00】一般講演 口頭発表4（A～C会場）…………… vi-vii
- 【17:00-17:15】一般講演 ポスター表彰式（受付付近）…………… vii
- 【17:15～】夜間小集会1（B会場）…………… vii
- 【17:15～】夜間小集会2（C会場）…………… vii

6月30日（日）会場：熊本大学理学部1・2号館西側1～3階，3号館2階

- 【9:30-10:45】一般講演 口頭発表5（A～C会場）…………… vii-viii
- 【11:00-12:00】一般講演 口頭発表6（A～B会場）…………… viii
- 【13:00-14:00】化石友の会ラボツアー（理学部 1・2号館・他）…………… viii

発表方法と発表機器についての注意事項（必ずお読み下さい）…………… ix

会場案内、交通案内など…………… x-xii

2013年年会参加費 一般会員・非会員3000円 友の会会員・学生会員1000円

高校生以下無料（予稿集は有料）

***** 2. プログラム 詳細 *****

6月28日(金) 熊本大学百周年記念館 シンポジウム「古環境指標としての微化石—生息場から堆積場 に至る環境復元のツールとして」

コンビナー：小松俊文，西 弘嗣，秋元和實，長谷川四郎

1. 13:00-13:10 趣旨説明 西 弘嗣 (東北大学)
2. 13:10-13:30 有孔虫殻の運搬・移動 長谷川四郎 (熊本大学)
3. 13:30-13:35 コメント：廣木義久 (大阪教育大学)
4. 13:35-14:55 有孔虫からみたGatewayの復元：古津軽海峡の復元 根本直樹 (弘前大学)
5. 13:55-14:00 コメント：大井剛士 (東京大学)
6. 14:00-14:20 石灰化プロセスの最近の進展 豊福高志 (JAMSTEC)
7. 14:20-14:25 コメント：木元克典 (JAMSTEC)
- 【14:25-14:35】 休憩
8. 14:35-14:55 微化石からみた生物礁の環境 藤田和彦 (琉球大学)
9. 14:55-15:00 コメント：井龍康文 (東北大学)
10. 15:00-15:20 近現代の環境変動に対する内湾貝形虫群集の応答とその要因 河野重範 (島根県立三瓶自然館)
11. 15:20-15:25 コメント：入月俊明 (島根大学)
12. 15:25-15:45 湖沼珪藻の古生態と古気候変動 林 辰弥 (御船町恐竜博物館)
13. 15:45-15:50 コメント：斎藤めぐみ (国立科学博物館)
- 【15:50-16:00】 休憩
- 【16:00-16:20】 総合討論

【16:30-17:40】 総会

【18:00-20:00】 懇親会

会場：熊本大学 (黒髪南地区)「フォリコ〔2階〕」

懇親会会費：一般会員・非会員 5,000円，学生・友の会会員 3,000円

メールでの申込先：小松俊文 (自然科学研究科)

電子メール：komatsu@sci.kumamoto-u.ac.jp，電話：096-342-3425，FAX：096-342-3411

ハガキでの申込先：〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-2 本郷MTビル401号室 日本古生物学会事務局 03-3814-5490

準備の都合上，参加希望される方は，必ず事前にメールかハガキで6月14日(金)までにお申し込みくださいますようお願いいたします

6月29日(土)

【9:00~9:50】学術賞受賞記念特別講演 (理学部3号館2階)

放散虫の多様性変遷史解明を目指したシノニム
データベースの構築 (鈴木紀毅)

【9:50-10:00】休憩

【10:00-11:00】一般講演 口頭発表1 (A~C会場)

A会場	B会場	C会場
古脊椎動物の部 (1) 座長: 久保 泰	古環境の部 (1) 座長: 池原 実	軟体動物の部 (1) 座長: 佐々木猛智
A01 柴田正輝: 福井県の下部白亜系北谷層から発見された新しい幼体のイグアナドン類化石	B01 w 北村晃寿・大橋陽子・小倉一輝・内田絢也・斉藤亜妃・小山真人・篠原和太・宮入陽介・板坂孝司: 化石記録に基づく伊豆半島南部の古津波・古地震	C01 m 永田紘樹・小松俊文・ボリス・シュリージン・佐藤 正・石田直人: 島根県西部に分布する下部ジュラ系樋口層群から産出した北方系二枚貝化石群
A02 東 洋一・柴田正輝・久保 泰・関谷 透: 手取層群北谷層から発見されたオルニトミモサウルス類について	B02 m LEGRAND Julien (ルグラン・ジュリアン)・山田敏弘・辻野泰之・西田治文: 西南日本の下部白亜系物部川層群のパリノフロラと日本における被子植物の出現時期	C02 m 松原尚志: 熊本県天草地域の中中部始新統白岳層産のマルスダレガイ類(二枚貝綱)の分類と古生態
A03 w 高津翔平・Sardsud, A.・Saesaengseerung, D.・Pothichaiya, C.・上松佐知子・指田勝男: タイ国東北部 Non Tum から産する恐竜類の足跡化石	B03 w 野村律夫: 低塩分汽水湖, 宍道湖で確認された1980年代以前の有孔虫群集の顕著な変化	C03 m 中島 礼・吉田勝彦: 縄文人はトウキョウホタテを食べたのか?
A04 w 三枝春生・池田忠広・半田久美子: 篠山層群産竜脚類の脳函の特異な2形質	B04 m 黒柳あずみ・Régine E. da Rocha・Jelle Bijma・Howard Spero・川幡穂高: 飼育実験より得られた溶存酸素濃度の浮遊性有孔虫への影響	C04 m 土屋正史・吉田尊雄・力石嘉人・小川奈々子・本郷悠貴・藤原義弘・藤倉克則・丸山 正・大河内直彦: 深海性二枚貝シロウリガイ類およびシンカイヒバリガイ類の宿主-共生系に見られる栄養依存形態の違い

【11:00-11:15】休憩

【11:15-12:15】一般講演 口頭発表2 (A~C会場)

A会場	B会場	C会場
古脊椎動物の部 (2) 座長: 佐藤たまき	古環境の部 (2) 座長: 北村晃寿	軟体動物・形態解析の部 座長: 中島 礼

A05 w 鈴木大輔・大橋智之：ハドロサウルス類の臍付着部の組織学的構造	B05 m 池原 実・香月興太・山根雅子・横山祐典・松崎琢也：南大洋における最終氷期の海氷拡大・寒冷化イベント	C05 w 天野和孝・ロバート・ジェンキンス：北海道浦幌町の暁新統から産出したモミジンデボラ科 (Aporrhaidae) 巻貝の産出意義
(キャンセル)	B06 w 佐川拓也・内田昌男・池原 研・村山雅史・岡村 慶・多田隆治・加三千宣・岡崎裕典：最終氷期の千年スケール冬季モンスーン変動が日本海表層の混合層深度に与えるインパクト	C06 m 野下浩司：腹足類殻の“巻き”パタンの3Dおよび2Dイメージデータに基づく定量化法
A07 m 平山 廉・中川良平：三重県津市の東海層群亀山層(新第三紀鮮新世)より産出したカメ化石について	B07 m 大串健一・岩本綾音・竜田泰行・野村慎也・阿波根直一・内田昌男・本山 功：最終退氷期の北太平洋における溶存酸素極小層の発達 -底生有孔虫群集の解析-	C07 m 清水啓介・遠藤一佳：貝類における貝殻成長の分子メカニズムからみる貝殻の形態進化
A08 w 久保 泰：足跡から探る三疊紀主竜型類の移動様式	B08 m Yasufumi Iryu・William J. Woelkerling・Davide Bassi：Fossil semi-endophytic species of <i>Lithophyllum</i> (Corallinaceae, Rhodophyta) from Tahiti	C08 w 生形貴男：地質年代単元の長さの違いが古生物多様性評価に及ぼす影響

【12:15-13:15】 昼休み

【13:15-14:15】 一般講演 ポスター発表コアタイム

ポスター会場 (理学部 1・2号館 2-3階 C228, C330, C331)

- P01：東 洋一・柴田正輝 福井県勝山市の下部白亜系北谷層から産出した小型獣脚類について
P02：池上直樹・吉永 徹・佐藤宇紘・椋木俊文・大谷 順 X線マイクロCTスキャナーを用いた御船層群産アズダルコ科翼竜頸椎骨の内部構造の解析
P03：大塚之尋・佐藤たまき・渡部真人 モンゴル・ゴビ砂漠南西部の上部白亜系ネメグト累層から産出した恐竜卵殻化石
P04：大塚健斗・河野重範・林 広樹 島根県出雲市多伎町の布志名層から産出した鰐脚類上腕骨
P05：高橋 唯・荻嶋美帆・山下 桃・中島保寿・佐藤たまき 宮城県の稲井層群大沢層から産出した前期三疊紀の爬虫類化石
P06：服部創紀 獣脚類における足機能の進化
P07：藪田哲平・東 洋一・平山 廉・安藤寿男 福井県勝山市の下部白亜系手取層群北谷層の化石カメ類
P08：稲村研吾・Davin H.E. Setiamarga・北村晃寿・佐々木猛智・遠藤一佳 分子系統によるカキ上科の進化解析
P09：近藤康生・山岡勇太 トドロキガイはタマキガイの祖先種：土佐湾および穴内層産標本の色彩パタンの解析
P10：高月崇成・近藤康生 筒をつくる二枚貝コツツガイ *Eufistulana grandis* の分布特性：鮮新統穴内層における古生態学的検討
P11：伊庭靖弘・Jörg Mutterlose・近藤康生 東アジアの化石記録から探るベレムナイトの初期進化史
P12：唐沢興希・前田晴良 漂着オウムガイ殻の破損パターンの検討
P13：竹田裕介・棚部一成・佐々木猛智 サウスダコタ州の上部白亜系産スカフィテス科アンモノイド類の殻にみられる被食痕
P14：御前明洋・岡崎美彦・水野吉昭 高知県佐川地域の宮ノ原層産白亜紀後期アンモノイドとその層序学的意義

- P15: 安藤佑介・鶴飼宏明・河野重範・廣瀬浩司・中谷大輔・黒須弘美・大塚雅勇・鬼海友喜・柄沢宏明 熊本県天草炭田地域の古第三系産十脚類化石
- P16: 増田智洋・鈴木雄太郎・大野悟志・椎野勇太 遊泳性三葉虫 *Remopleurides* 複眼: 転輪羅針儀機能発現か?
- P17: 磯和幸延・更科 功・紀藤圭治・Beatrice Demarchi・Matthew Collins・遠藤一佳 腕足動物における殻体タンパク質及び化石タンパク質の同定
- P18: 二井谷菜美・小松俊文・Matthew H. Dick 島原半島南部に分布する更新統大江層より産出するコケムシ化石
- P19: 徳田悠希・江崎洋一 *Flabellum (Ulocyathus)* 亜属 (刺胞動物門・イシサンゴ目) の骨格微細構造とその進化的意義
- P20: 柏木健司・伊左治鎮司・浅井秀彦・佐野晋一 鮮新統名洗層の基底礫岩中の石灰質団塊礫から産する中生代微化石群集
- P21: 佐野佳緒里・柏木健司 手取層群桐谷層産の微化石群集
- P22: 奥村知世・古山精史朗・狩野彰宏 中国江蘇省に分布する新原生代徐淮層群の珪化したストロマトライト中の糸状体微化石
- P23: 山田 桂・増馬鉄朗・坂井三郎・瀬戸浩二 貝形虫殻の酸素同位体比からみた過去 1700 年の東アジア夏季モンスーン変動
- P24: 久保田好美・木元克典・板木拓也 底生有孔虫 *Cibicoides wuellerstorfi* の新しい Mg/Ca 換算式に基づく最終氷期極相期以降の沖縄本島周辺海域における底層環境変動
- P25: 齋藤礼弥・金沢謙一 浅海域に生息するブンブク類の適応戦略
- P26: 高木悠花・守屋和佳・石村豊穂・鈴木 淳・川幡穂高・平野弘道 相模湾より得られた現生浮遊性有孔虫の成長段階別安定同位体比記録と水柱構造
- P27: 辻本 彰・野村律夫・福田賢一 児島湾における現生底生有孔虫の季節変動
- P28: 森永 綾・松岡数充 渦鞭毛藻シスト群集に反映された大村湾の富栄養化
- P29: 吉岡 薫・河野重範・入月俊明・松本 翔・野村律夫・廣瀬孝太郎 島根県隠岐島後西郷湾における珪藻遺骸群集の水平分布
- P30: 今井 遼・佐藤時幸・井龍康文 石灰質ナノ化石群集に基づく中新世～鮮新世の琉球列島“泥海(島尻層群)”の年代層序学的・古海洋学的復元
- P31: 亀尾浩司・板倉 望・一井直宏 石灰質ナノ化石 *Sphenolithus* 属の中期中新世における特徴的な形態の変化
- P32: 猪瀬里佳子・栗原敏之 黒瀬川帯鴻ノ森地域の下部デボン系における放散虫化石群集の変遷
- P33: 原 康祐・栗原敏之 オマーンオフィオライト Wadi Jizzi 地域 Lasail セクションにおける後期白亜紀遠洋性堆積物(スヘイラ層)の放散虫生層序
- P34: 中村景騎・栗原敏之・原 英俊 徳島県北川地域における檜曽根層群の遠洋性～半遠洋性珪質岩および陸源性碎屑岩から産出した後期ペルム紀放散虫化石
- P35: 酒井佑輔・関戸信次・松岡 篤 白山区の手取川流域および石徹白川流域における手取層群の白亜紀前期植物相
- P36: 山崎 誠・千葉歌澄・佐藤時幸・池原 実 更新世中期の南大西洋亜南極前線移動にともなう海洋構造の変遷
- P37: 兼子尚知・伊藤泰弘・佐々木猛智・利光誠一・中島 礼・松原尚志 古生物標本データベースの構築とそのメリット
- P38 河村 愛・河村善也: 沖縄県石垣島白保竿根田原洞穴遺跡の後期更新世～完新世の齧歯類動物相とその意義

高校生ポスターセッション

- PH1: 小田涼香ほか (熊本県立第一高校) 御船層群の古環境～火山豆石の形成過程～
- PH2: 竹井魁佑ほか (熊本県立第一高校) 阿蘇谷周辺の湧水や自噴井戸等の実態を探る
- PH3: 守屋友一朗 (長野県諏訪清陵高校) 守屋山のカキ化石
- PH4: 小夏広大・齊藤 凜・濱崎しずく (東海大学付属熊本星翔高校・宇土市立鶴城中学校) 宇土半島の地質と古環境

【14:15-15:30】一般講演 口頭発表 3 (A～C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (3) 座長: 宮田和周	生層序の部 (1) 座長: 前田晴良	系統・進化・分類の部 座長: 遠藤一佳

A09 w 田中郁子：現生鳥類足跡の形態解析－白亜系鳥類と小型非鳥獣脚類への適用－	B09 w 指田勝男・上松佐知子・佐野弘好：美濃帯舟伏山東方地域のチャートから産する前期三疊紀 <i>Parentactinia nakatsugawaensis</i> 放散虫動物群	C09 w 高橋昭紀・田中泉吏：断続平衡説の哲学的考察
A10 m 高井正成・河野礼子・金昌柱・張穎奇：中国南部の広西壮族自治区における更新世霊長類相の変遷に関する予備的考察	B10 w 山下大輔・安田知佳・尾上哲治：沖縄県辺戸岬に分布する上部三疊系石灰岩から産出したコノドント化石	C10 w 鈴木紀毅・辻彰洋・仲村康秀・Fabrice NOT・Johan DECELLE・Tristan Biard：分子系統解析と形態分類の統合に基づくアカンタリア（放散虫）の分類体系の再構築
A11 w 鷯野光・樽創・甲能直樹：デスマスチルスのエナメル質の成長線に沿った同位体分析に基づく生活史復元	B11 w 加藤ひかる・鈴木紀毅・尾上哲治・高橋聡・山北聡：日本の三疊系放散虫化石帯の模式地における上部三疊系コノドント化石層序	C11 w 千徳明日香・江崎洋一・後藤慎介・徳田悠希：キサング科六射サンゴの分子系統解析に基づく祖先形質の復元
A12 w 河部壮一郎・小林沙羅・遠藤秀紀：食肉目における嗅覚および視覚に関わる頭骨形態の水棲適応	B12 w 栗原敏之・中村景騎・原英俊：徳島県北川地域の黒瀬川帯砕屑岩から産出した前期ペルム紀放散虫化石	C12 w 大路樹生：現生ウミユリ類の分子系統より出された「ウミユリ学の宿題」
A13 w 北川博道・坂本治：埼玉県立自然の博物館所蔵の藤本治義コレクションに含まれるナウマンゾウ化石	B13 m 古山精史朗・狩野彰宏：貴州省北東部におけるEdiacara系Doushantuo層の岩相と炭素同位体層序	C13 m 佐々木猛智・伊藤泰弘：系統分類学を効率化する標本データベース

【15:30-15:45】休憩

【15:45-17:00】一般講演 口頭発表4 (A~C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (4) 座長：河部壮一郎	生層序の部 (2) 座長：山口龍彦	形態解析の部 (2) 座長：生形貴男
A14 w 国府田良樹・三枝春生・安藤寿男・飯泉克典・長谷川善和・高橋修一：日本の中新統産 <i>Stegolophodon</i> 属(長鼻目)の頭蓋化石	B14 w 出原祐樹・林広樹・高橋雅紀：群馬県富岡市の中新統における浮遊性有孔虫生層序	C14 w 椎野勇太・ルキア アンジョリーニ：動かざるもののジレンマ－翼形態種パキシルテラの流体適応
A15 m 藺田哲平・国府田良樹・平山廉・安藤寿男・飯泉克典：茨城県常陸大宮市の下部中新統玉川層より産出したスッポン類化石	B15 w 三宅優佳・小松俊文・高橋修・重田康成：鹿児島県下甕島北部に分布する姫浦層群の層序と地質年代	C15 m 石田直人・岸本直子・松岡篤・栗原敏之・木元克典・吉野隆・松浦執：3D イメージング技術による放散虫研究
A16 w 宮田和周・柴田正輝・東洋一：福井県勝山市下部白亜系北谷層（手取層群）産の2種の哺乳類化石	B16 w 重田康成・伊豆倉正隆・西村智弘：北海道から新たに見つかった上部白亜系カンパニアン階大型化石群	C16 w 相場天佑・和仁良二：縫合線の複雑さと螺管の形態との関係性：マダガスカル産白亜紀アンモナイト類の種内変異解析
A17 w 山田英佑・蓮見恵理・宮里奈央・赤星仁美・渡部真人・仲谷英夫：イラン・マラゲー産後期中新世	B17 m 鈴木寿志・石田啓祐・三上禎次・前田晴良：高知県のジュラ系上部統七良谷層のアンモナイト層準	C17 m 木元克典・佐々木理・鹿納晴尚・脇田昌英・岩下智洋・入野智久：現生浮遊性有孔虫にみられる骨

有蹄類化石におけるメゾウエア解析	周辺から産する放散虫化石(予察)	格密度変化の季節性
A18 m 鏑本武久・江木直子・高井正成・タウンタイ・ジンマウンマウンティン：ポンダウン層からの新種偶蹄類：ラオエラ科はポンダウン層にいたか？		C18 w 嶋田智恵子・田中裕一郎：外洋性浮遊珪藻 <i>Neodenticula</i> の形態多様性と Northern Hemisphere Glaciation

【17:00-17:15】ポスター賞表彰式（受付付近）

【17:15~】夜間小集会

夜間小集会 1 (B 会場)

「深海掘削計画における微化石データベースに関する検討会」

世話人：西 弘嗣・岩井雅夫・長谷川四郎

夜間小集会 2 (C 会場)

「現生種最古の化石記録を探る：貝類版 EOS II 計画 (Earliest fossil Occurrence of extant Species)」

世話人：近藤康生・延原尊美・松原尚志・佐々木猛智・栗原行人・中尾賢一

趣旨：現生種の出現は、最も豊富な情報を駆使して、進化の実像に迫ることができる古生物学の重要テーマである。貝類を例とし、現生種最古の化石記録を特定する作業を通して、タフオノミー、分類、現生種出現の進化イベントやその古環境背景など、はばひろく議論したい。

6 月 30 日 (日)

【9:30-10:45】一般講演 口頭発表 5 (A~C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古生態の部 (1) 座長：野牧秀隆	古生物地理の部 座長：佐々木猛智	形態解析の部 (3) 座長：椎野勇太
A19 w 加藤 萌・大路樹生：続成作用の影響による化石棘皮動物の骨格内の構造と Mg 濃度の変化	B18 m 板木拓也・荒井晃作・小田啓邦・兼子尚知・中島 礼・田中裕一郎：沖縄“500m 島棚”下部から採取された中期更新世の化石群集	C19 m 山崎和仁・谷島向宏：古生物学における生物間相互作用の微分幾何学的考察
A20 m 狩野彰宏・奥村知世・森 大器・高島千鶴・白石史人：サリトレ層炭酸塩岩（新原生代，ブラジル）の指状構造と小球体：最古の動物のイメージ	B19 m 柿崎喜宏・狩野彰宏：ボルネオ島北西部，上部ジュラ系バウ石灰岩層の岩相と礁性生物相	C20 m 岡罵亮子：体サイズと採餌行動の進化
A21 w 歌川史哲・上松佐知子・指田勝男：伊豆半島東南部の新第三系白浜層群より産出する大型化石とその生息環境	B20 m 山北 聡・竹村厚司・相田吉昭・堀 利栄・鎌田祥仁・鈴木紀毅・高橋聡・Hamish Campbell・Bernhard Spörlri：前期三畳紀のコノドント古生物地理：platformed gondolellids は悪環境下で不利なのか？	C21 m 江崎洋一・千徳明日香・後藤慎介・徳田悠希：単体六射サンゴで <i>Balanophyllia ponderosa</i> でみられる出芽様式-即時的な生活史戦略-

A22 w 望月貴史・大路樹生：カンブリア紀前期における堆積環境の違いに対する生物活動の多様化	B21 m 山田敏弘・ルグラン・ジュリアン・西田治文：下部白亜系篠山層群上部層から産出する植物化石群集の特徴	C22 w 大野理恵・千徳明日香・升本眞二・江崎洋一：非造礁性群体六射サンゴにおける各個体のテリトリーの評価
A23 m 足立奈津子・小谷綾香・江崎洋一・劉建波：北中国山東省中部カンブリア系海綿-石灰質微生物礁の構築様式とその発達の意義	B22 w 幸村哲也・林広樹：日本海南部、島根県大田市琴ヶ浜における大型有孔虫 <i>Amphistegina lobifera</i> の生態調査	C23 w 大野悟志・鈴木雄太郎：三葉虫 <i>Eobronteus laticauda</i> の複眼：ランドルト環形状離れ目の視覚的特性とは？

【10:45-11:00】休憩

【11:00-12:00】一般講演 口頭発表6 (A~B 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古生態の部 (2) 座長：狩野彰宏	生層序の部 (3) 座長：板木拓也	古脊椎動物の部 (5) 座長：大橋智之
A24 w 大金薫・辻彰洋・鈴木紀毅・山口篤：放散虫の安定した培養技術の確立へ向けて	B23 m 齋藤めぐみ：湖沼珪藻が湖沼間を移動した地質学的な証拠	C24 w 河村善也・河村愛：沖縄県石垣島における第四紀哺乳類化石研究—研究史と現状、そして今後の展望
A25 w 野牧秀隆・力石嘉人・土屋正史・豊福高志・大河内直彦・植松勝之・多米晃裕・北里洋：嫌気環境下における底生有孔虫細胞内での脱窒と微生物の関与	B24 w 松岡篤・セイエド・ハミド・バジリ：イラン西部ケルマンシャ地域ビセトゥンセクションのジュラ系放散虫層序	C25 w 河村愛・河村善也：沖縄県石垣島白保竿根田原洞穴産の日本最古級の人骨群に伴う哺乳類化石 2 齧歯目
A26 m 松岡敷充・池田有里・加賀新之助・内記公明・小檜山篤志・山田雄一郎・緒方武比古：津波による堆積物攪拌が渦鞭毛藻の増殖に与えた影響	B25 m 尾上哲治・佐藤峰南・野崎達生・鈴木勝彦：三疊紀後期の隕石衝突イベントと放散虫群集変化	
A27 w 藤田和彦・東江龍自・土屋正史・力石嘉人・大河内直彦：食性が浮遊性有孔虫の個体数に与える影響	B26 m Tatsuhiko Yamaguchi・Richard D. Norris：High-resolution biostratigraphy of the Paleocene-Eocene ostracodes at Ocean Drilling Program (ODP) Site 865, equatorial Pacific	

【12:00-13:00】昼休み

【13:00~14:00】化石友の会 ラボツアー (理学部 1・2 号館ほか)

集合場所：学会受付付近

申込・問い合わせ：friends@palaeo-soc-japan.sakura.ne.jp/03-3814-5490

当日参加も受け付けますが、出来るだけ事前申込をお願いします。

***** 3. 発表方法と発表機器についての注意事項 *****

<一般講演（口頭発表）をされる方へ>

- 発表時間は、講演 12 分、質疑応答 3 分です。時間厳守でお願いいたします。
- 使用機器は事前申告制です。講演番号に続く w, m の文字は、プレゼンに使用するパソコン OS の略号です。w:Windows (OS 指定なしを含む), m:Mac.
- Windows は Power Point2007 バージョン, Mac は Power Point2011 バージョンのインストールされた PC を用意しています。プログラムの進行上, ご自身のパソコンを持ち込んでの講演は原則としてご遠慮ください。なるべく一般的なフォントを使用し, Windows の方は可能であればフォントの埋め込みをお願いいたします。
- 各講演者は, 講演用ファイルを CD または USB メモリーに保存し, ご持参ください。ファイル名は, 「C03_Yabe.ppt」のように, 「講演番号, アンダーバー, 筆頭講演者名, 拡張子 (.ppt)」(すべて半角) として下さい。
- データの受け渡しは, 総合受付脇の専用カウンターで行ってください。6 月 28 日 (金) の午後から受け付けます。混雑が予想されますので, 時間の余裕を持ってお越し下さい。受付時に作成した OS の種類と Power Point のバージョンを必ずお知らせください。

<ポスター発表をされる方へ>

- ポスターボードのサイズは, 175 cm×120 cm です (画鋏可)。
- ポスター発表のコアタイムは, 6 月 29 日 (土) 13:15-14:15 ですが, ポスターは当日の朝から貼ることができます。なお, ポスターは **6 月 30 日 (日) 12 時**までに撤収して下さい。詳しくは会場受付あるいは会場係までお尋ね下さい。

<会場および発表方法・機器などに関する連絡・問い合わせ>

小松俊文 (熊本大学自然科学研究科) komatsu@sci.kumamoto-u.ac.jp

電話: 096-342-3425, FAX: 096-342-3411

長谷川四郎 (熊本大学自然科学研究科) shiro@sci.kumamoto-u.ac.jp

電話: 096-342-3421, FAX: 096-342-3411

行事係: 佐々木猛智 (東京大学総合研究博物館) sasaki@um.u-tokyo.ac.jp

-
- 懇親会について 本プログラム ii ページ参照。

●昼食に関する情報

6 月 29, 30 日は, 大学の生協・食堂は休業です。大学周辺のコンビニエンスストアや食堂は限られていますので, 6 月 29 日の昼食につきましては, お弁当を予約して頂くことをお勧めします。お弁当 (500 円) の予約は, 6 月 14 日までに下記担当までお申込み下さい。こちら事前の申し込みに御協力下さい。

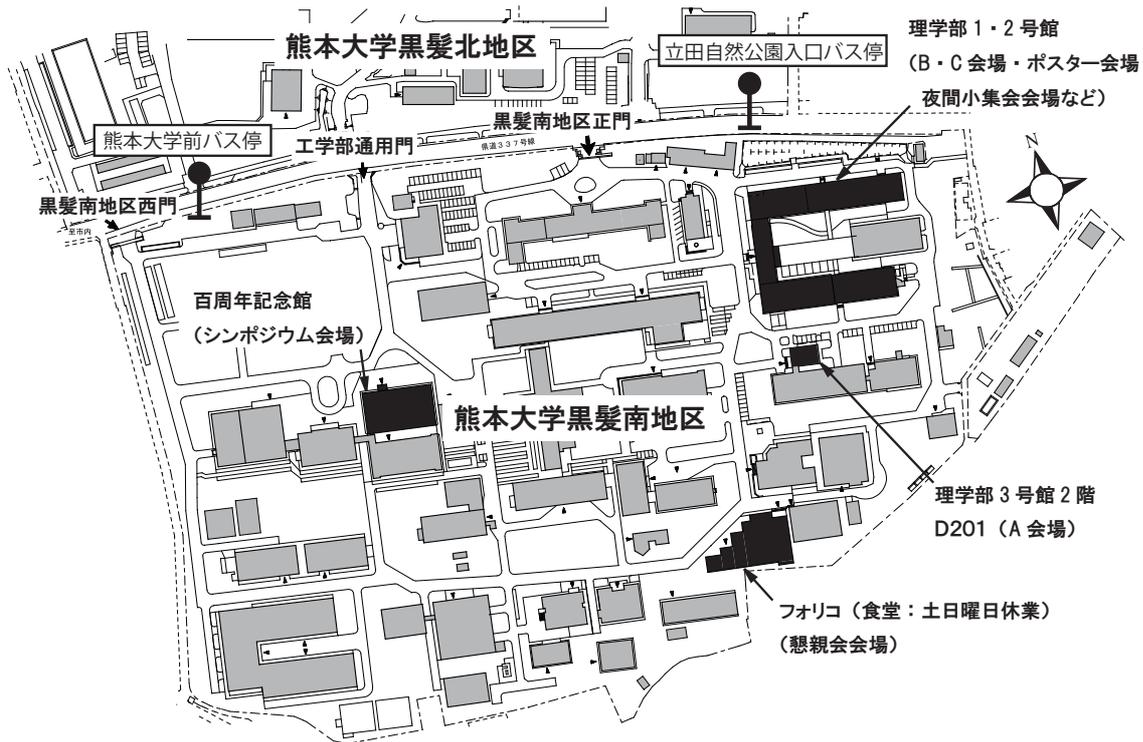
申込先: 小松俊文 電子メール: komatsu@sci.kumamoto-u.ac.jp

電話: 096-342-3425, FAX: 096-342-3411

シンポジウム会場(100周年記念館)での飲食はご遠慮ください。また, シンポジウムおよび講演会場の建物内は禁煙ですので, お煙草は指定の喫煙所でお願いします。

- 盗難対策 最近, 本学会を含め, 学会開催中の盗難が報告されています。貴重品は確認の責任で管理をお願い致します。

***** 4. 会場案内 *****

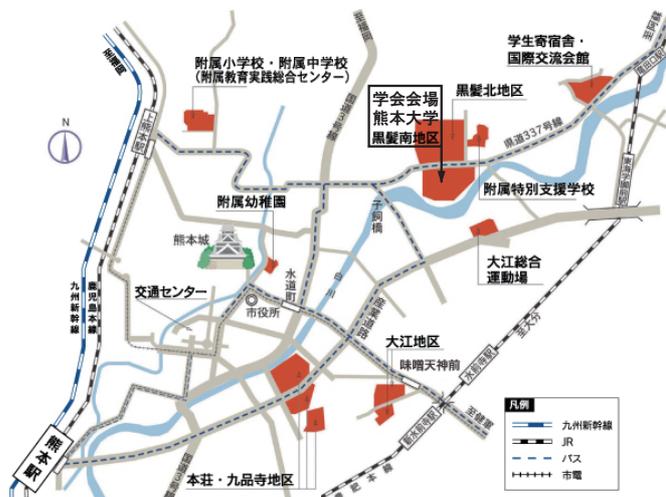


6月28日(金) 総合受付：熊本大学百周年記念館正面玄関内

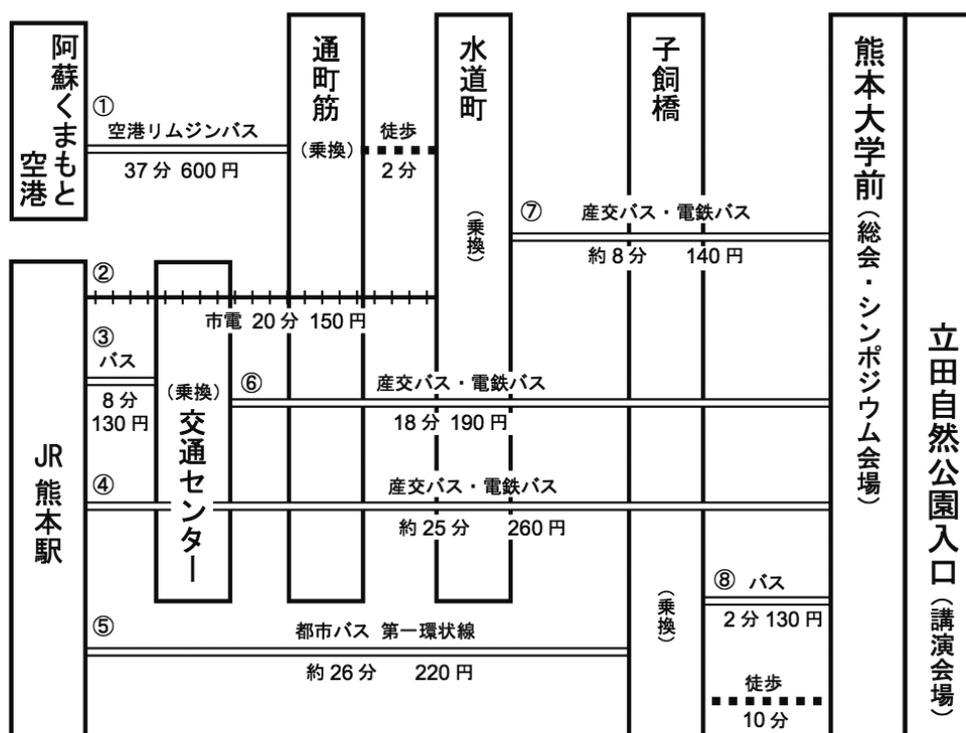
- ・シンポジウム講演：熊本大学百周年記念館

6月29・30日(土・日) 総合受付：理学部1・2号館正面玄関内

- ・特別講演：理学部3号館2階(A会場(D201))
- ・一般講演：理学部1・2号館1-2階(B会場(C122), C会場(C226))
- ・ポスター会場(高校生ポスター会場を含む)：
 - 理学部1・2号館2-3階(C228, C330, C331)
- ・夜間小集会会場：理学部1・2号館1-2階(B会場(C122), C会場(C226))
- ・休憩室：理学部1・2号館2階(C227)
- ・販売・展示会場：理学部1・2号館1階(C123)



熊本大学への交通アクセス



- ① 阿蘇くまもと空港 バスのりば1番。熊本市内行に乘車、「通町筋」下車、道路向側「通町筋」バス停または「水道町」バス停(⑦)でバスに乗換
- ② 熊本駅電車のりば 健軍町行に乘車、「水道町」(⑦)でバスに乗換
- ③ 熊本駅バスのりば1番 「交通センター」行バス(産交・電鉄・都市・熊本各社)に乘車、「交通センター」(⑥)で産交バス・電鉄バスに乗換
- ④ 熊本駅バスのりば1番 産交バス「(子7) 武蔵ヶ丘」行、(子1)「楠団地」行・「竜田口駅前」行に乘車、(熊本大学まで直通。ただし、1時間に1-2本)
- ⑤ 熊本駅バスのりば1番 都市バス「(駅2) 第一環状線」,「子飼橋」(⑧)下車。徒歩(10分)または産交バス・電鉄バスに乗換
- ⑥⑦⑧ 「熊本大学前」・「立田自然公園入口」経由のバス
以下の停留所で、次の記号のバスに乘車して下さい。
子1, 7, 8, 9, 18, 20(産交バス・電鉄バスとも)
停留所： ⑥ 交通センター13番のりば, ⑦ 「水道町」または「通町筋」(手取カトリック教会バス停前), ⑧ [子飼橋]

・ 図と説明は簡略版です。

・ 詳細は熊本大学ホームページをご覧ください。

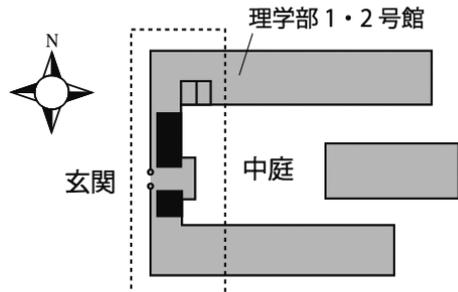
http://www.kumamoto-u.ac.jp/campus_jouhou/access

・ バス時刻表は以下で直接検索もできます。

産交バス <http://www.kyusanko.co.jp/sankobus/rosen/bt62t201.php?Ent=1>

電鉄バス <http://www.kumamotodentetsu.co.jp/bus/select/>

都市バス <http://www.kumamoto-toshibus.co.jp/search/bt64t231.php>



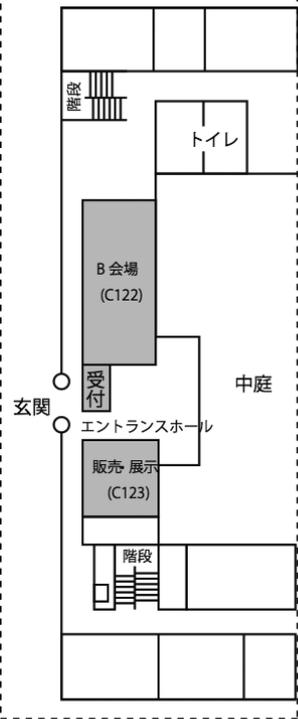
会場案内図

熊本大学 黒髪南地区 理学部1・2号館

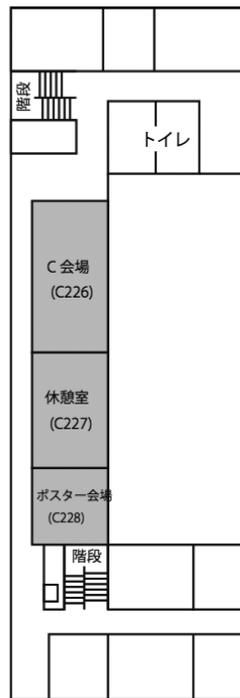
一般講演会場 (B会場, C会場, ポスター会場), 夜間小集会会場, 受付, 休憩室, 販売・展示会場など

* A会場は理学部3号館2階(D201)です。

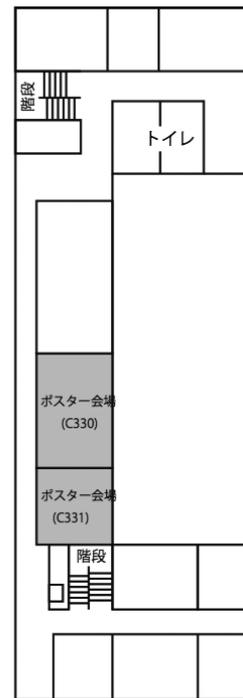
理学部1・2号館1階西側



理学部1・2号館2階西側



理学部1・2号館3階西側



熊本大学 黒髪南地区 百周年記念館
シンポジウム会場

